

日程	科目	内容・目的	時間数
1 日 目	①サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者の基本姿勢とサービス提供のプロセスに関する講義（7. 5時間）		
	サービス提供の基本的な考え方（講義）	サービス提供の基本的な考え方として、利用者主体の視点、自立支援の視点、エンパワメントの視点、ICFの視点、現実的な支援計画に基づくサービス提供、連携の必要性等について、講義により理解する。	60分
	サービス提供のプロセス（講義）	サービス提供のプロセスに関する講義により、PDCAサイクルによるサービス内容を確認することの重要性とその方法、個別支援計画の意義を理解する。	90分
	サービス等利用計画等と個別支援計画の関係（講義）	サービス等利用計画等と個別支援計画の関係性について講義を行い、サービス等利用計画における総合的な援助方針を導き出すプロセスを理解し、個別支援計画の出発点がサービス等利用計画等の総合的な援助方針であることを認識する。また、サービス等利用計画等が生活全体の範囲に及び、個別支援計画が生活全体をイメージしながらも事業所内サービスに重点を置いた計画であることを理解する。	90分
	サービス提供事業所の利用者主体のアセスメント（講義）	サービス提供における利用者を主体としたアセスメントの考え方やその手法について講義により理解する。また、障害種別や障害福祉サービスなど各分野における異なる視点について理解する。	150分
2 日 目	個別支援計画作成のポイントと作成手順（講義）	個別支援計画の作成におけるポイントと手順についての事例等を活用した講義を行い、作成の視点からリスクマネジメントのみにならないように、エンパワメントの視点やストレングスの活用について理解するとともに、作成の手順を習得する。	60分
	②サービス提供のプロセスの管理に関する演習（7. 5時間のうちの4. 5時間 + 5時間）		
3 日 目	個別支援計画の作成（演習）	モデル事例を活用したグループワークにより、サービス等利用計画に示される総合的な援助方針、長期目標、及び短期目標を踏まえて、個別支援計画の支援内容、担当者、連携の頻度等について検討する。それに基づき、支援目標、支援内容を設定し、個別支援計画を作成する。 ※長野モデルでは、事例の概要からのファーストインテーク、聴き取り、アセスメント票への落とし込み、ニーズの抽出、支援目標と本人の役割、支援内容の設定など、計画作成演習に時間をかけて行う	290分 280分
	③サービス提供に関する講義・演習（4. 5時間） ※実践研修カリキュラム案より抜粋		
4 日 目	個別支援会議の運営方法（講義・演習）	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援会議の意義、進行方法、行うべき事項（個別支援計画作成時、モニタリング時）等について講義により理解する。 ・個別支援会議における合意形成過程について、模擬個別支援会議実施体験演習を通じて、サービス管理責任者等としての説明能力を獲得する。 ・模擬個別支援会議の体験を基に、個別支援会議におけるサービス管理責任者等の役割についてグループワーク等により討議し、その役割についてまとめる。 	270分
	④サービス提供のプロセスの管理に関する演習（7. 5時間のうちの3時間）		
	個別支援計画の実施状況の把握（モニタリング）及び記録方法（演習）	モデル事例を活用したグループワークにより、事業所において提供している支援のモニタリングについて、サービス等利用計画等との連動性を念頭に入れながら、視点・目的・手法等を理解する。	180分

基礎研修

この研修の講義は、サビ児管になるための基本的なことを押さえる。本人主体の質の高いサービスを提供するために、適切なアセスメントによる計画策定が重要になるが、講義内容を理解した上で、演習を実施し更に深める。

2日目以降の演習は、子供の成長期と成人期の2つの事例を通して【個別支援計画の作成手順】を習得する。グループワークの形式をとり、チーム支援を基本とする連携を図るための実践的な演習を行う。国の告示では3日間研修のカリキュラムを組まれているが、長野県は2年後から実施される予定の実践研修に組み込まれた【支援会議の運営方法】は欠かせないプログラムと判断し基礎研修に位置づけたため4日間研修となる。

個別支援計画はサービス等利用計画と連動性を念頭に作成されるものであるため、【プロセス管理に関する演習】では、モニタリングの実践的な演習を習得する。

2019 長野県サービス管理責任者・児童発達支援責任者更新研修カリキュラム案

日程	科目	内容・目的	時間
1日	障害福祉の動向に関する講義 【講義】	最新の障がい福祉の動向を理解することで、利用者の置かれている制度的環境の変化を認識する。	60分
	サービス提供の自己検証に関する演習 【講義・演習】		300分
	事業所としての自己検証 【演習】	グループワークを通じてそれぞれの事業所の取り組み状況や、地域との連携の実践状況を共有することにより、コンプライアンスを理解し、今後の事業所の取り組みを明確にする。	120
	サービス管理責任者 についての自己検証 【演習】	サビ児管として自らを振り返り、自己覚知を促し、支援の在り方や地域との関わり方、今後の自らの取り組むべき研修課題を明確にする。グループワークの協議を通して整理する。	120
	関係機関との連携 《GSVの理解》 【講義・演習】	事例を通して支援方針の基本的な方向性や、支援内容する事項重点を置いて、グループワークを展開することにより、関係機関との連携の重要性を深めるとともに 人材育成を図るための取り組みを地域の中に見出す。	60分

令和3年度からは、人材育成の内容を充実させるため、2日間研修の予定となります。

更新研修

現在の事業所と自分自身のサビ児管としての立場を、グループワークを通して他の事業所のサビ児管と情報交換をしながら検証する。

関係機関との連携をはかることは、サービスを提供する立場としても、障がいのある方を地域で支え続ける意味においてもとても重要で、自立支援協議会や各部会等の場を活用し、人材育成についても計画的に進める準備をする。この演習では2年後から実施する予定の人材育成のひとつの取り組みであるGSV(グループスーパービジョン)を体験する。